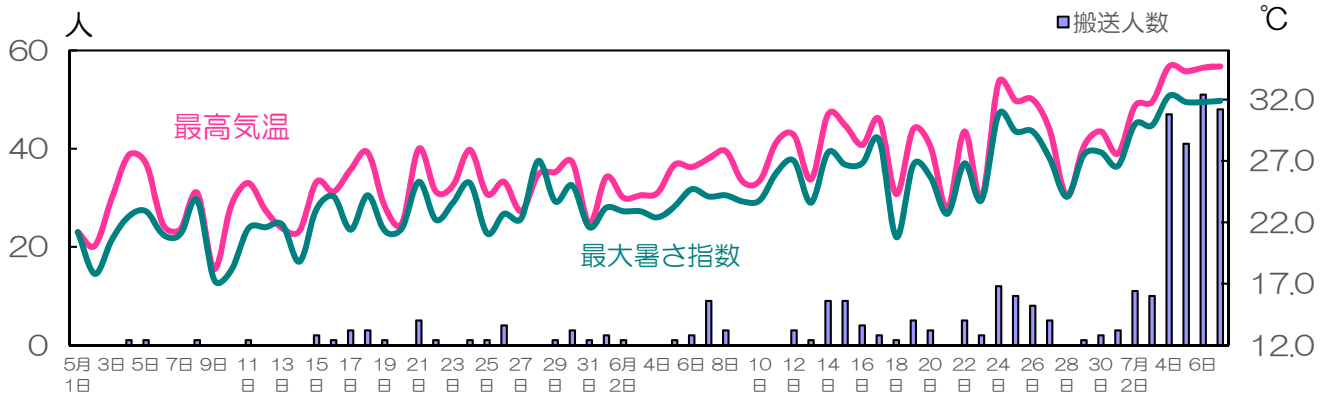


熱中症情報

<搬送数>

令和6年4月29日～7月7日までの搬送数（消防局データを使用）は、計342人（4月0人、5月31人、6月100人、7月211人）でした。7月4～7日は、最高気温が34.3℃以上、暑さ指数が31.8℃以上で、搬送数が連日40人以上/日と急増しています。

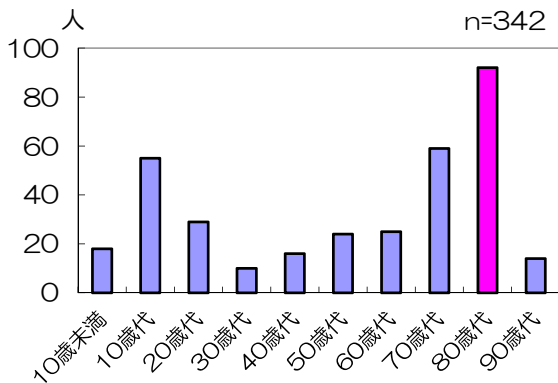
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数 \(WBGT\) とは？](#)」をご覧ください。

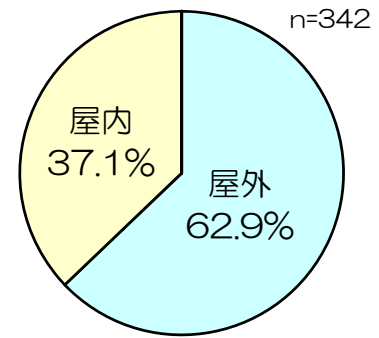
<年齢別>

80歳代が92人（26.9%）で最も多く、次が70歳代で59人（17.3%）でした。



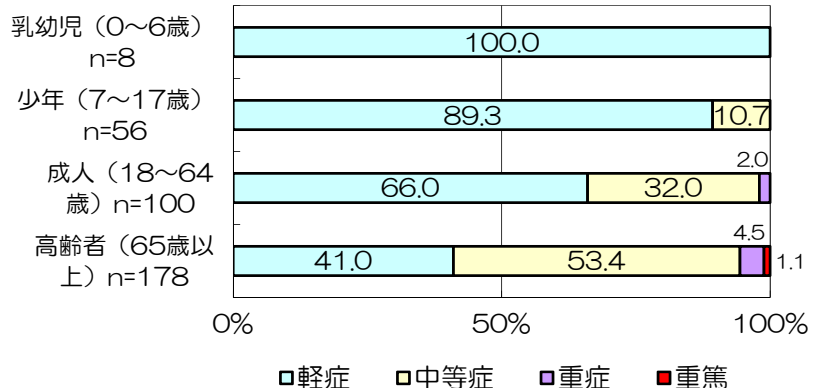
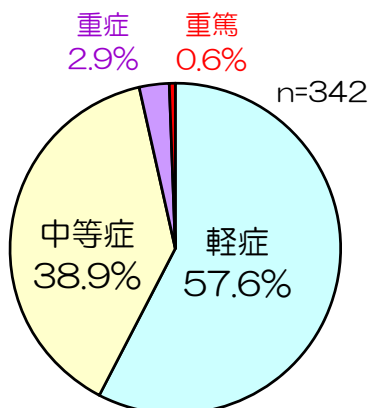
<発生場所>

屋外62.9%、屋内37.1%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度*>

軽症57.6%、中等症38.9%、重症2.9%、重篤0.6%でした。高齢者で中等症以上の割合が59.0%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。